

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立本庄高等学校 定時制課程)

目指す学校像	生徒一人ひとりを大切に、知・徳・体の調和のとれた教育を行う。
--------	--------------------------------

重点目標	1 「わかる授業」に向けた授業改善と学習環境の整備による基礎学力の向上 2 進路意識の高揚とスキルの向上による進路指導の充実 3 家庭との連携や日常の生徒指導を通じた基本的生活習慣の確立 4 保護者・地域との連携強化による学校教育力の向上
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 3 1 日 現 在)	
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 3 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	多様な生徒が在籍しており、学習意欲や習熟度、日本語会話力に著しい差がある。一人一人が「わかる授業」を実践するために、日々の授業改善と学習環境の整備が必要である。	「わかる授業」の実践に向けた授業改善に取り組む。	①生徒の実態に応じた習熟度別授業の工夫や学習サポーターの活用等により「わかる授業」の実践につなげる。 ②授業アンケートと教職員研修会を実施し授業改善に生かす。	①習熟度別授業の工夫した取り組みを実施し、「わかる授業」につなげられたか。 ②授業アンケートの分析と教職員研修会を実施できたか。	①習熟度別授業、外部支援員による授業補助や個別指導を実施、生徒が「わかる授業」につなげた。(6月と1月アンケートで「理解できている」が10%増加) ②年間2回授業アンケートを実施し、新指導要領に係る職員研修会を実施した。	A ・新学習指導要領の改訂に伴う教育課程の編成を行う。 ・日本語会話が困難な生徒への指導を継続しながらも、徐々に通常の授業への参加へつなげていく指導が必要である。
		多様な生徒のニーズに応じた学習支援策を構築する。	①日本語会話に課題がある生徒への多文化共生推進員を活用した学習支援を行う。 ②家庭での学習時間の確保が難しく成績不良な生徒に対し、自学できる環境を整備し、学力向上につなげる。	①対象生徒への支援の提供とそれによる日本語会話力の向上につながったか。 ②成績不良な生徒の学力向上と欠点保有生徒数の減少に繋がったか。	①対象生徒4名への個別指導、授業補助、始業前の日本語教室等の支援を行い、日本語会話力の向上につなげた。 ②学期末補習を11回実施、延べ119人参加した。欠点保有者が1学期40人(昨年56人)2学期30人(昨年64人)と減少	A ・学期末補習を継続し、そこへの参加や課題に取り組む意識を高める指導が必要。
2	社会人としての必要なスキルが身についておらず、卒業後の進路についても具体的な目標が描けない生徒が多い。早い時期からのキャリア教育と社会人基礎力の向上、更に具体的な進路選択とその実現への適切な支援が必要である。	県支援事業を「社会人育成講座」として活用したキャリア教育を行う。	①SST や心理テスト、社会体験活動等を行い進路意識とスキル向上を図る。 ②資格取得への挑戦なども計画的に支援する。	①「社会人育成講座」等による生徒の変容が見られたか。 ②資格、検定試験に取り組む生徒が増加したか。	①「社会人育成講座」を計画的に年間通して実施できた。 ②資格取得生徒数は昨年同期の4人から6人に増加した。	A ・ホームルームを活用したキャリア教育をより、充実させることが必要であろう。 ・各種資格取得に向けて、その必要性や就職活動への効果等を生徒に浸透させ、資格取得に向かう生徒を増やすことにつなげる。
		進路希望の実現を図るための適切な支援に取り組む。	①生徒一人一人の適切な進路選択に向けた支援を行う。 ②就職支援アドバイザーを活用して、生徒の進路実現にはかる。	①生徒一人一人に応じた進路相談体制を構築できたか。 ②就職支援アドバイザーを活用し生徒の進路実現が図られたか。	①HRや放課後を使い、一人一人に応じた相談を受けることができた。 ②就職支援アドバイザーを活用し、きめ細かい指導を行い、就職12名、専門学校1名、大学2名進学。	B
3	多様な生育歴・学習歴によって様々な課題を持ち、自分に自信が持てない生徒が多い。家庭との連携を図りながら、担任だけでなく全ての教職員が協力して、日常から生徒指導を行うことで、基本的生活習慣の確立を図り、自己肯定感を高めることが必要である。	あらゆる指導場面で醸成するとともに、基本的生活習慣の定着を図る。	①登校時の声掛け指導や駐車場見回りに取り組む、生徒への適時の指導を行う。 ②個人面談や家庭との連携に取り組み、基本的生活習慣の定着を図る。 ③心の悩みを持つ生徒へのスクールカウンセラーによる相談体制を整備。	①年間を通じて登校時の指導が継続して行えたか。 ②個人面談や家庭との連携に定期的に取り組めたか。 ③スクールカウンセラーによる相談体制を構築できたか。	①年間を通じて登校時指導やきめ細かい生徒指導を実施。落ち着いた学習環境を作ることができた。 ②担任による個人面談の実施や家庭との連携を緊密にとることができた。 ③月2回のスクールカウンセラーによる相談日を設け、相談体制を構築した。	A ・あらゆる場面を通じて、様々な課題を持つ生徒理解を深め、個に応じた指導に生かしていく。 ・担任、養護教諭、スクールカウンセラー、支援員等が適切な生徒の指導につなげるために、より緊密な連携を図る必要がある。
		生徒の自主性を発揮できる場を学校生活の中につくる。	①生徒の自主性を発揮できる場として、生徒会役員生徒へのきめ細かな指導・支援に取り組む。	①生徒会活動の活性化がすすめられたか。	①生徒会役員を中心として生徒が自主的に取り組めるような指導・支援を実施。文化祭では新たな取組を行えた。	A
4	保護者・地域への情報発信を積極的にい開かれた学校づくりに取り組み、保護者・地域の関係機関・支援組織とのより緊密な連携を図り、学校教育力の向上につなげる事が求められている。	保護者・地域に幅広く情報を発信する。	①「定時制だより」を通して、保護者・地域へ本校の情報を発信する。 ②ホームページの更新頻度を高め、定時制の教育活動を幅広く発信する。	①毎月「定時制だより」を発行し発行回数を増やせたか。 ②ホームページの更新回数を増加できたか。	①「定時制だより」を6号発行した。(昨年年間7号) ②ホームページの更新回数は昨年同様であった。	B ・保護者、地域への情報発信をより活発にしていく。 ・地元地域の福祉課や就労施設、ハローワーク等との連携を一層図り、生徒のアルバイト、就労につなげていくことが必要である。
		保護者・地域の人材・機関との連携強化を図る。	①地域人材との連携を深め、必要な生徒への支援につなげる。 ②就労施設、特別支援拠点校、地域行政機関等との連携強化を図る。	①地域人材を活用できたか。 ②地域の機関・組織との連携強化を図れたか。	①定時制支援事業において、地元地域の支援員の支援を計画的に活用できた。 ②ハローワーク、地元市町の関係課等との連携を図り、生徒の課題解決に繋がった。	B

学校関係者評価
実施日平成31年1月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力差が大きい現状がある。授業を充実させていくことは簡単ではないが、より良い方向に改善して行ってほしい。 ・メンタル面で個別のフォローをしていただいていることは非常に良いと思うし、感謝している。
<ul style="list-style-type: none"> ・在校中の仕事について、実業界でも人が足りない現状があり、実業界と生徒のマッチングをするとよいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・定時制には、学校への意欲が高くない生徒もいる。そんな生徒たちへの日常の「声掛け」が大切で、生徒会長としても実践している。 ・定時制の「声掛け」の取り組みは、学校の雰囲気づくりとして素晴らしい取り組みでぜひ継続してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取り組みを地元の中学生にも伝えていきたいし、学校でもより広報に努めたほうが良いのではないかと。